

## 「能動的な聞き方」

- ◆ 昨年の「貴志南っ子」7月号で「アイ・メッセージ」について紹介しました（※過去の学校だよりはホームページに掲載しています）。そこに登場するキッズカウンセラーさんから学んだうちのもう一つ「能動的な聞き方」を紹介します。
- ◆ 登校前の家での一場面です。わが子が浮かぬ顔で「ぼく、今日は日直なんや」と親に話します。

ぼく、今日は日直なんや



### Aちゃんの家の場合

親「当番やったら余計に早く用意せんと」  
子「うん…（下を向きだまってしまう）」  
親「早くしなさい！遅れるやろ！」  
子「行きたくないもん」  
親「何言うてんの！休めやんよ、日直やる？」  
子「ウエ～ン！、いやや行きたくない。」  
親「なんで行きたないんよ、早くしなさい！」

### Bちゃんの家の場合

親「そう、日直なんやね。」  
子（下を向き黙ってしまう）  
親「日直のことが気になってるんやね。」  
子「うん、だってヒロシ君と一緒になんや。」  
親「ヒロシ君と日直と一緒にというのが気になってるんやね。」  
子「だってヒロシ君、ちゃんとやってくれへんもん。」  
親「ヒロシ君、日直の仕事をちゃんとしてくれへんのやね。」  
子「うん、前もボクばかり。先生も僕にばっか言いにくるもん。」  
親「自分ばかりがやってるように思うんやね。」  
子「うん、そうや。まあヒロシ君もちょっとくらいしてくれるけどよ。」  
親「そうか、ヒロシ君もしてくれるんやね。」  
子「給食台、拭いてくれたりするんよ。」  
親「そうか。ヒロシ君がしてくれていることも分かってるんや。」  
子「わかってるよ。今日は一回ヒロシ君に言うてみるわ。」  
親「言うてみようと思うんやね。」「いってらっしゃい」

- ◆ タイトルの「能動的な聞き方」というのは相手（子ども）の言葉を「繰り返す」「言い換える」「気持ちを汲む」ことをして聞くのだそうです。
- ◆ Aちゃん家とちがって、Bちゃん家は、あわただしい朝にずいぶん時間がかかっています。
- ◆ しかし、Bちゃんの家の場合、コミュニケーションが双方向に行き交います。柔らかな温もりを感じます。そして、子ども自身が気づかなかったこと（ヒロシ君のプラス面）に気づき、自分で「一回ヒロシ君に言うてみるわ」と問題解決の方法まで見つけ出していきます。（少し出来過ぎの感はありますが…）
- ◆ 上記は聞き方の技術を述べているようですが、相手を理解しようとする能動的な気持ちが根底にあります。
- ◆ 先月加太合宿での5年生はまさにアウトメディアで、周りは豊かな自然と友達と先生と職員だけの2日間でした。メールでのやりとりが多くなっている中、今の子どもたちだけでなく、大人もまた温もりを自然と求めている気がします。5年生の生き生きとした姿を見て、「温もり」は、生の人と人との関係の中で、相手を理解しようとしてこそ感じるができるのだと再確認しました。 < 学校長 >